

献血の大切さ 高校生学ぶ



講師を務めた石川さん（金沢市の第一学院高校金沢キャンパスで）

県赤十字血液センター（金沢市）では、若者の献血への理解と協力を促す目的で特別授業を行っている。金沢市堀川新町の第一学院高校金沢キャンパスで2日、「献血を通してみる命の大切さ」と題して行われた。授業には、同校の1、3

年生計18人が参加。講師は、同センター事業部献血推進課の石川範子さん（40）が務めた。石川さんは、日本全国で約120万人の患者が献血を必要としている現状のほか、血液は長期間保存が出来ないことや輸血を受けた患者の声などをビデオで紹介。また全国的に10〜20歳代の献血者が減少傾向にあることなどの課題に触れ、「献血は患者にとっての命綱になる。社会を構成する私たちの行動で救われる命がある」と、献血への理解を求めた。

同校1年渡辺耕太さん（15）は、「献血は命を分け合う行為だと学ぶことができた」と話した。